

平成 28 年 8 月北海道大雨激甚災害による日高・十勝地方の被災後の状況

1. はじめに

平成 28 年 8 月中旬から半月の間に、4 個の台風が北海道に上陸・接近し、かつてない台風の襲来となり、連続的な豪雨となって、北海道では昭和 56 年豪雨被害を超える被害規模となりました。

被災から 1 年、各所・各機関で復旧や再整備を進めている中、防災委員会水工部会では、参加者 8 名で、以下の日程で現地勉強会を開催しました。

7 月 26 日…国道 274 号線日勝峠の通行止め区間のうち室蘭側、パンケ新得川、ペケレベツ川

7 月 27 日…戸蔦別川、札内川

2. 国道 274 号の復旧状況

国道 274 号は道央圏と道東圏を結ぶ主要幹線道路ですが、昨年 8 月の台風による被災のため、日高町千栄～清水町清水までの区間が、通行止めとなっています(平成 29 年 7 月現在)。

今年の秋頃の開通を目指し復旧工事が進められておりますが、7 月中旬から日高町と清水町に、被災概要や復旧工事の進捗について情報発信するためのインフォメーションセンターが開設されました。



写真-1 簡易模型で被災状況の説明を受ける(日高側)

現地視察に先立ち、日高町のインフォメーションセンターで説明を受けました。今回の被災は河川の流水に起因する落橋、護岸や道路の洗掘のほか、豪雨による法面崩落など多岐にわたっておりました。被災箇所は頂上まで縦断的に連なっており、複数の業者が協力し、工事を進めているとのことでした。

現地視察は、通行止め箇所から 7km ほど入ったところまで見せていただきました。この区間の路線は沙流川に近接しており、河床勾配が急で流速が早いことに加え、流木が被災要因になっていることが伺えました。復旧工事では被災箇所に応じた工法が選定されていることが分かりました。

3. 十勝川支川の状況

十勝川支川では、急激な流量増加により橋梁部分が閉塞され、堰上げとなって堤防決壊やいっ水が生じて浸水被害が発生した箇所が多くありました。

(1) パンケ新得川

洪水により河岸決壊とそれに伴う家屋の流出・浸水、JR 橋の崩落、道路橋の橋台背面の洗掘など、甚大な被害が発生しました。

このため、河道の拡幅や湾曲部の解消を行うとともに、河床の洗掘を防止する帯工及び、勾配を緩和する落差工を設置し、2カ所の橋梁の架け替えを行うことで、洪水を安全に流下させ、再度災害の防止を図る計画がされているとのことでした。

橋台背面が洗掘を受けた橋梁では、視察時は復旧の状況となっておりましたが、他の現場または現地調達なのかは不明ですが、コンクリートを切断して護岸ブロックとして再利用しており、当時の資材調達の難しさと現場の工夫がうかがえました。



写真-2 再利用されているコンクリートブロック

(2) ペケレベツ川

アイヌ語で「明るく清らかな川」が町名の由来である清水町ですが、昨年8月の豪雨により上流部では表層崩壊や土石流が発生しました。

河川には流下能力以上の流出があり、流木による橋梁部の河道閉塞によって偏流が発生し、局所洗掘、側方侵食により河岸・堤防決壊が起き、市街地まで氾濫しました。川幅が3～5倍にも拡幅された箇所もみられました。

市街地に隣接する橋梁においても橋台背面の洗掘や、落橋が復旧されておらず、現在も通行止めが続いている箇所があります。河道整備についても被災延長が長く、河道断面の整備、帯工、落差工の設置、護岸工の敷設など様々な工事が実施中、または実施予定であり、早期復旧が望まれている状況です。



写真-3 橋台背面の洗掘状況(ペケレベツ川)

(3) 戸蔦別川、札内川

札内川ではその支川である戸蔦別川との合流部の復旧工事を見学しました。現地では、災害状況から復旧工事の進捗・完成状況まで視覚的にまとめた掲示板があり、測量～設計～施工までICT活用をした各種の取組みも含めて各プロセスがわかりやすく説明されていました。

また、護岸や根入等の各種ブロックといった材料や工事用重機・車両等については、大規模・広範囲な災害のために確保に大変苦労があったこと等、現場代理人の方からいろいろと話を聞くことができました。



写真-4 札内川復旧工事の情報掲示板(戸蔦別合流部)

4. おわりに

災害発生からほぼ1年弱経過した時点での復旧状況ですが、大規模・広範囲な災害のため、優先順位を付けての復旧とならざるを得ないものと実感しました。また橋台背面が洗掘されるパターンを含め、橋が使えない箇所が多く、向こう岸に渡れない不便さを実感しました。今後はこれらの結果を踏まえた復旧となると思いますが、我々技術士の知恵の発揮どころでもあると感じました。